

風羅坊旧蹟

〔岡崎をかざきにありとぞ、定ならず。今此所に蝶夢幻阿弥陀仏といふ俳法師あり、此旧址を駐るならんか〕

芭蕉翁ばせう都經徊の時、しばらくこゝに住し、歿し給ふて後、其門下の鳥落人あねん惟然こゝに棲で、朝夕の勤には翁の発句を和讃として諷ひ、木魚うちならしてひたぶるに心を清し、月雪をあはれみける。終に宝永八の年二月九日こゝにてむなしくなり侍る。遺詞により、全鍛ぜんかが刻し翁の肖像、六つの品の形見〔菅簞、笠、杖、行硯、空囊、紙繡袈裟〕は惟然あねんの門弟播磨はりまなる千山せんざんに附属す、今は姫路ひめちの北増位山ますゐさんに、風羅坊を遷して堂を営、こゝに安置し、側に塚を築てかの簞の塵を納て神とし、これを簞塚と呼ぶ。又其側に姫府の城主の発句を石に鐫て立らる。〔委は須磨すま明石名所図会に見へたり〕

はせを葉や風にやれても名は幾世

姫府 雅 楽 侯

満願寺

〔下岡崎しもをかざき東側にあり。開基は日亨かう上人、元禄年中の建立なり〕 閼伽井あかゐ〔堂前の南にあり、是法勝寺ほつしようじの閼伽井あかゐ

といふ〕 文子天神あやこてんじん〔当寺の鎮守なり、堂前の北にあり。初は北野にあり、後世こゝにうつす。中御門院御祈願ありて社

壇拜殿御造営あり〕

蓼倉薬師

〔満願寺まんぐわんじの北に隣る。本尊は伝教大師でんけうだいしの作、坐像一尺余。脇士に十二神将を安置す。いにしへは今の下鴨しもかも

の地蓼倉里たでくらのみさとにあり、一年洪水に寺院破壊して、本尊も漂流しこゝに止るといふ、故に蓼倉山法雲寺れいさうさんほううんじと号す〕

親鸞屋敷しんらんやしき

〔岡崎元応寺前町、今の南部第の北、竹林の地なりとぞ。いにしへこゝに五劫庵ごごふあんといふありて、親鸞聖しんらんしやう

人三十三歳の時、元久二年四月選択集書写し給ふ旧蹟なり。此事本願寺伝記に出たり。土人親鸞屋敷しんらんやしきといふ。又聖護院しやうごあん

の北に、月輪殿下の別荘の旧地あり、田の字を月輪つきわといふ。此地なる歟、両所決せず〕

堀出観音ほりだしのかんおん

〔同所の西側にあり。元禄年中北の方竹林の内古井より揚る所なり、土蔵に安置す。是いにしへ六勝寺ろくしょうじ

の中の伽藍尊ならんか〕

東天王社ひがしてんわうやしら

〔同所東の端にあり。祭神牛頭天王ごづ。華表の額正一位東天王とうてんわうと書す、いにしへは此地に東光寺とうくわうじといふあ

り、其伽藍神なり〕

〔諸社根元記曰、祇園牛頭天王ぎをんごづてんわう、初めは播磨国明石浦に垂迹し給ふ、又広峯ひろみねにうつり、其後北白川東光寺きたしらかはとうくわうじにうつす〕

願成寺ぐわんじやうじ

〔東天王の南にあり、大念仏宗にして、河州佐太来迎寺かしうさたらいがうの懸所なり。寺説曰、此地は旧真言院しんごんあんにして諸堂嚴

重たり。応仁の兵火に罹て烏有となる。それより年久しく荒廢に及びしを、近年叡山えいざんの沙門普照再興ふせうし、醍醐三寶院だいごばうあんに属し住職す。普照滅後久しく無住にてありしを、来迎寺らいがうじの慈雲上人止職じうんし、大念仏宗を世に弘通し堂舎を再建す〕

姫ヶ池ひめ いけ

〔中岡崎黒谷門前の南にあり、由縁詳ならず〕

秋葉社あきはの やしろ

〔上岡崎南側にあり。近年遠州秋葉山権現三尺坊を勧請して、大就寺の里坊とす〕

御所稻荷社ごしや いなりの やしろ

〔同所北側にあり。初めは一条殿館内にありしを、こゝにうつす。即家臣川上氏こゝに居宅す〕

鳥居大路とりゐ おほち

〔上岡崎より栗田口三条十禅寺辻に至る大路をいふ。又車大路ともいふ、太平記曰、建武二年正月奥州の

国司顕家卿二万余騎にて栗田口より押寄て、鳥居大路に火を掛られたり云云。古鳥居大路を家名とする人居住するゆへ

なり、其苗胤は今青蓮院御門跡の家臣なり〕